

<プレスリリース>

2011年5月19日  
(社)日本分析機器工業会

## (社)日本分析機器工業会 新会長に 服部重彦氏(株)島津製作所)就任

社団法人日本分析機器工業会(JAIMA)は本日(平成23年5月19日)の当工業会第32回通常総会において、堀場 厚氏(株)堀場製作所 代表取締役会長兼社長)の後任として 服部重彦氏((株)島津製作所 代表取締役会長)を会長に選任いたしました。

服部重彦新会長は、当工業会の技術力の向上を目指し、さらなる国際化を図り、分析機器・科学機器合同展などを通じてアジアのリーダーとしての役割を果たす活動をおこなっていきます。また、産学官連携を中心として産業界(主として中小企業)、アカデミアなどとの交流を深め、政府に対して提言ができるような活動を拡大していく予定です。

### 服部重彦 略歴

#### <職歴>

昭和39年 4月 株式会社 島津製作所 入社  
平成 元年 1月 シマヅ サイエンティフィック インストルメンツ  
                  ンク社社長(米国駐在)  
平成 5年 6月 取締役就任(米国駐在)  
平成15年 6月 代表取締役社長 就任  
平成21年 6月 代表取締役会長 就任  
現在に至る



#### <主な公職歴(現職)>

平成22年 5月 (社)京都工業会 会長  
平成23年 3月 文部科学省 宇宙開発委員会 委員  
平成20年 6月 (社)日本画像医療システム工業会 副会長

賞 罰 平成19年 4月 藍綬褒章 受章

(社)日本分析機器工業会とは

昭和35年(1960年)8月に創立(47年の歴史)された我が国最大の分析機器メーカーの全国組織です。「分析機器に関する技術の向上と分析機器工業の高度化を通じ、科学技術の発達を図り、日本経済の発展と国民の文化的生活の向上に寄与する」ことを目的としています。

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

社団法人日本分析機器工業会 事務局 濱崎/林

Tel:(03)3292-0642 Fax:(03)3292-7157 E-mail:hamazaki@jaima.or.jp

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-10-1 サクラビル

## 配布資料1

### I. (社)日本分析機器工業会の現況

- ・ H23年4月1日現在の会員総数197社(分析機器メーカー及び分析機器の販売店、代理店)
- ・ H21年度年間生産高 約3740億円、内約5割を輸出(世界市場約2兆円+、米・欧・日3極)
- ・ 多品種少量生産(顧客仕様による受注生産が多く、1機種の間年生産台数:数台~数千台)

### II. 分析機器とは

- ・ 物質の組成、性質、構造及び状態などを測定するための機械器具または装置。
- ・ 具体的な例として、ウイルス等、超微細物質を観測する電子顕微鏡、残留農薬、食品添加物等、化学物質を計測するガスクロマトグラフィー質量分析装置、土壌汚染などに関わる微量元素類を計測する原子吸光分析装置などなど、原理、構造とも多岐にわたった製品が数多くある。
- ・ またそれらは企業等に於ける研究開発、品質管理や、国民生活に密接に関係する公害物質等を測る環境計測、食品添加物等の安全性チェック、犯罪捜査における科学鑑識、考古学における年代測定、病院における血液検査のような各種検査などの各分野で広く使われている。
- ・ このように、我々の日常活動の多くの場面において使われている分析機器は、我が国の科学技術を支えるマザーツールであり、科学技術基本計画(第IV期)によって打ち出されているグリーンイノベーション・ライフイノベーションを推進する上で重要な機械・装置である。

### III. 島津製作所について

京都に本社を置き、分析・計測機器、医療用機器、航空機器、産業機器などの精密機器の技術開発・製造をおこなう会社。社員にはノーベル化学賞を受賞した田中耕一氏がいる。明治8年(1875年)3月、創業。大正6年(1917年)9月、設立。創業以来、社是に「科学技術で社会に貢献する」を掲げ、「人と地球の健康」への願いを実現することをめざしてきた。分析・計測機器の売上高は平成22年3月末でおよそ1,344億円であり、日本のこの分野でのリーディングカンパニーとなっている。

(社)日本分析機器工業会 歴代会長

1. 吉田 正直 (株)島津製作所) 昭和35年8月～47年1月
2. 上西 亮二 (株)島津製作所) 昭和47年1月～57年5月
3. 加勢 忠雄 (日本電子(株)) 昭和57年5月～62年5月
4. 西八條 實 (株)島津製作所) 昭和62年5月～平成7年5月
5. 藤原 菊男 (株)島津製作所) 平成7年5月～11年5月
6. 竹内 隆 (日本電子(株)) 平成11年5月～15年5月
7. 矢嶋 英敏 (株)島津製作所) 平成15年5月～19年5月
8. 堀場 厚 (株)堀場製作所) 平成19年5月～23年5月
9. 服部 重彦 (株)島津製作所) 平成23年5月～

## 〈ご挨拶〉

今年3月11日の東日本大震災と津波による未曾有の災害、それにより引き起こされた福島原発の事故により、多くの方々が被害を受け、いまだに避難生活を余儀なくされていることに心を痛めております。お亡くなりになった方々には心からご冥福をお祈りいたします。また被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

当工業会の会員の中にも被災された会社も有りましたが、おおきな人的被害がなかったことは幸いでございました。当工業会ではこの復興に向けて、できる限りの貢献をしていきたいと考えております。

このような大変な時期に工業会の会長をお引き受けすることになりました。堀場前会長がこれまで4年間にわたり、工業会の改革を進めてこられましたので、それを継承、発展させるということでこの困難な時期を乗り切っていきたいと思っております。

当工業会の使命は、分析機器の品質、性能の改善向上と分析機器工業の高度化を図り、日本経済の発展と国民の文化的生活に寄与することにあります。

現在、政府では新経済成長戦略が策定され、グリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの推進が国家の重点目標となっております。そのイノベーションを生み出すマザーツールである分析・計測機器に対する注目が日々高まってきております。

その中で以下の5つの事柄について、重点的に取り組みたいと考えております。

### 1. “技術力向上”のための連携強化

研究者および産業界との連携をより強化することで、産学官のネットワークをより確固たるものにします。具体的には連携交流の機会を増やし、国の支援による新たな分析機器の開発を醸成するような活動をすすめたいと考えます。この活動を通じて日本の強みを持った企業（たとえばベンチャー企業や特殊加工技術を有する中小企業また、世界をリードする自動車工業、電気工業、化学工業など）や業界との連携を深めていくことが必要と考えます。これにより、変化する社会に対応した最先端機器・関連製品を提供することができます。

### 2. 情報の受発信

「情報の受発信」は大変重要なことと考えます。一つは国の施策や規制、新しい技術などの情報をいち早く会員企業に届けること。二つ目には政府に対して政策提言のような活動を進めること。三つ目には工業会の活動を海外に向けて発信することにより国際的なプレゼンスを高めること。これらの活動を通じて、会員企業の便宜を図ると共に技術力の向上を目指します。

### 3. 分析展・科学機器展合同展

当工業会の最大のイベントである分析展は、分析展・科学機器展の合同展という形態に発展しております。本年度の合同展については、当初の計画通り実施いたします。今回の震災等の影響も考慮しましたが、このような時だからこそ、日本の復興という観点からも産業の基盤である機器展示を行うことは大変重要であると認識しています。できるだけ節電を心がける“エコ”展示会に徹します。

### 4. グローバル化

ALSSA-EUROM II-JAIMA 日米欧協力事業、アジア域内協力事業は軌道に乗つつありますが、さらに新たな交流を模索していきたいと考えます。また、当工業会がアジアのリーダーとしての旗振り役を果たしていくために、分析展のグローバル化をさらに検討していきます。

### 5. メディカル・イノベーションへの取り組み

分析を伴った新しい診断技術が発展しつつあります。今後どのような診断技術が出てくるのかという調査を行うとともに、工業会としての対応を考え、これらの関連企業の入会を促進していきたいと考えます。

以上 今後の工業会のさらなる発展に向けて、微力ながら力を入れていきたいと思っておりますので、皆様方のお一層のご支援をお願いいたします。